

ウズベキスタン主催の国際ハイレベル会合「中央・南アジア地域連結性」

(2021年7月16日開催)

【冒頭挨拶】

親愛なるミルジヨーエフ大統領閣下、カミーロフ外務大臣閣下、御出席の皆様、日本の外務副大臣の宇都隆史です。

国際ハイレベル会合が本日無事に開催されたことに、日本政府を代表して心からお祝い申し上げます。

【総論】

中央アジア諸国は、古来シルクロードの要衝に位置し、様々な文明の交差点としてモノやヒトを結び付けてきた地域です。

現代でも、中央アジアは地政学的に重要な地域です。この地域の連結性が強化されることは、域内経済の持続的発展のみならず、国際社会の安定と繁栄のために非常に重要です。

こうした観点から、日本政府は、ミルジヨーエフ・ウズベキスタン大統領による地域連結性の強化に向けたイニシアティブを力強く支持しています。

【インフラ・国境管理支援】

地域連結性の向上は、輸送力の強化のためのインフラ整備、モノやヒトの越境手続の円滑化、また、経済活動の活性化など、様々な取組を効率的かつ有機的に進めることによって達成されるものだと思います。

輸送インフラについて、日本は、ウズベキスタン南部の鉄道整備の支援を行ってきました。国内拠点を最短ルートで結ぶことで、アフガニスタンなど国外向けの貨物輸送も効率的になります。

国境をまたいで「つなぐ」と同時に、移動・輸送を適切に「管理する」という視点も大切です。日本は、税関に検査機材を供与しつつ、UNODCと協力して中央アジア諸国の国境に連絡事務所を設置しました。

【人作り支援】

もう一つのカギとなるのは、「人」の育成です。日本は長年、中央アジアの人造りに貢献してきました。

若い行政官が日本の大学において学位を取得できるよう、奨学金の支援をしてきました。これまでに中央アジアの若い行政官668人が日本に留学しました。

日本のJICA、財務省、法務省、名古屋大学等が、連結性向上のために重要な税関分野など幅広い分野で研修を実施してきました。

こうした人材育成は、国際スタンダードに合致する効率的な行政を確保し、良好なビジネス環境の整備につながるものと確信しています。

【「中央アジア+日本」対話の取組】

日本は2004年に他国に先駆ける形で「中央アジア+日本」対話を立ち上げ、域内協力を後押ししてきました。ウズベキスタンの積極的な貢献を高く評価しています。最近の対話における外相会合では、アフガニスタンからの参加も得て、国境管理を含む地域協力について意見交換をしています。

【結語】

最後に、中央アジアの諸国が、現代における文明の十字路として、多くのパートナーとの協力の下、自由で、開かれ、安定した地域として更に発展していくことへの期待を表明し、締めくくりの言葉とさせていただきます。
御清聴ありがとうございました。